

2025
令和7年

中山道広重美術館連続講座

中山道広重美術館
Nakasendo Hiroshige Museum of Art

出版190年記念

「木曾海道六拾九次之内」大解剖

溪斎英泉と歌川広重による「木曾海道六拾九次之内」は、天保6年(1835)に制作・出版が開始されたと考えられており、令和7年(2025)は190年の節目に当たります。本連続講座では、本シリーズを取り巻くさまざまな要素を掘り下げ、多角的な視点から作品への理解を深めます。

第1回 4/12 (土)

「木曾海道六拾九次之内」入門

常包 美穂 (中山道広重美術館学芸係長)

1996年、香川県生まれ。筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程修了後、2022年より現職。専門は日本近世絵画史。主な企画展に「広重翁一晩年の画業と「写真(しょううつし)」」(2023年)、「木曾海道六拾九次之内」(2023・2024年)、「浮世絵おじさんフェスティバル」(2024年)など。

第2回 5/17 (土)

江戸庶民の旅と歩行

谷釜 尋徳 (東洋大学法学部教授)

1980年、東京都生まれ。日本体育大学大学院博士後期課程を修了後、2008年より東洋大学で勤務。専門は日本スポーツ史。著書に、『歩く江戸の旅人たち』(晃洋書房、2020年)、『江戸のスポーツ歴史事典』(柏書房、2020年)、『江戸の女子旅』(晃洋書房、2023年)、『スポーツの日本史』(吉川弘文館、2023年)など。

第3回 6/21 (土)

名所図会とその周辺

藤川 玲満 (お茶の水女子大学文教育学部准教授)

1977年生まれ。お茶の水女子大学文教育学部卒業。お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了。博士(人文科学)。専門は日本近世文学。著書に『秋里籬島と近世中後期の上方出版界』(勉誠出版、2014年)。論考に「名所図会の生成と図会様式の踏襲」(『日本文学』68(10)、2019年)など。

第4回 9/7 (日)

錦絵の生産と流通

大久保 純一 (国立歴史民俗博物館教授・町田市立国際版画美術館館長)

1959年、徳島県生まれ。東京大学大学院修了。名古屋大学、東京国立博物館、跡見学園女子大学を経て現職。博士(文学)。主な著書に『広重と浮世絵風景画』(東京大学出版会、2007年)、『浮世絵出版論 大量生産・消費される〈美術〉』(吉川弘文館、2013年)など。

第5回 10/4 (土)

溪斎英泉が描いた世界

松田 美沙子 (山梨県立博物館学芸員)

1987年、東京都生まれ。慶應義塾大学大学院文学研究科美学美術史学専攻修了後、東京国立博物館で非常勤職員として勤務し、2014年より現職。専門は日本近世絵画史。主な論考に「英泉と英山-両者の関係とその影響-」(『大和文華』第141号、2022年)、主な担当展覧会に「帰ってきた芳年の道祖神祭幕絵」(2024年)など。

第6回 11/9 (日)

歌川広重の画業と生涯

浅野 秀剛 (大和文華館館長)

1950年生まれ。立命館大学理工学部卒業。博士(哲学)。千葉市美術館学芸課長を経て、現在、奈良の大和文華館館長。大阪のあべのハルカス美術館館長。国際浮世絵学会会長。専門は浮世絵、絵入版本を中心とした日本近世絵画史。著書に『浮世絵は語る』(講談社現代新書、2010年)、『浮世絵細見』(講談社選書メチエ、2017年)など。

※肩書・略歴等は2025年1月時点のものです。日程・内容等を変更する場合がございます。

時 間：各回 午後1時30分～3時30分(予定) 受講料：4,000円(全6回)

場 所：中山道広重美術館 3階講座室(岐阜県恵那市大井町176-1)

▲講座生は中山道広重美術館友の会一般会員の特典が受けられます。

▲単独受講の当日席(若干数)は1回500円(観覧料別)。事前予約不可、先着順。

【お申し込み方法】

美術館受付に備え付けの申込書に必要事項をご記入の上、受講料を添えて直接ご提出ください。お電話やお問い合わせフォームからの仮申し込みも受け付けます。なお、定員(50名)になり次第締め切ります。

受付開始：2025年3月7日(金)から(開館日の午前9時30分～午後4時30分)

お問い合わせ：中山道広重美術館 TEL(0573)20-0522